平成30年度

一般社団法人北海道開発技術センター
調査研究等
（自主研究・自主プロジェクト・その他）
ー最終報告ー

2018

令和元年５月３１日

定時総会

平成３０年度　北海道開発技術センター　自主事業一覧

A. 自主研究

301 モビリティ・マネジメントに関する調査研究（継続）

302 沿道の環境の保全、活用に関する調査研究事業（継続）

303 公共交通に関する調査研究（継続）

304 北海道エコ・モビリティに関する調査研究（継続）

305 福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究（継続）

306 「ふゆトピア都市」に関する調査研究（継続）

308 吹雪時の視認性に関する調査研究（継続）

309 積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究（継続）

311 エコ・コリドールに関する調査研究（継続）

312 エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究（継続）

313 土木史に関する調査研究（継続）

314 環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究（継続）

316 北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究（継続）

317 気候変動下における雪氷環境に関する調査研究（継続）

318 北海道の地域防災に関する調査研究（継続）

319 北海道新幹線開業による2次交通及び周遊観光に関する調査研究（継続）

320 学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究（継続）

321 北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズムに関する調査研究（継続）

B. 自主プロジェクト

421 寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理（継続）

422 技術資料等のデータベース化に関する調査研究（継続）

423 寒地開発技術委員会の設置（継続）

424 インターンシップ制度（継続）

425 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業（継続）

D. 広報・普及啓発

451 decマンスリー（年12回）・ホームページの更新

461 寒地技術シンポジウムの開催

462 「野生生物と交通」研究発表会

463 地域政策研究セミナー等の開催（年4回程度）

D. 国際交流

427 日中冬期道路交通ワークショップの開催

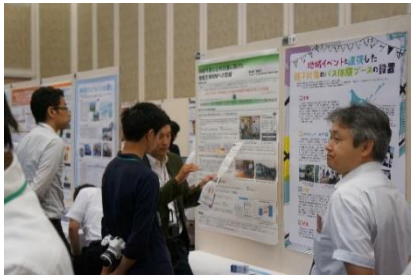
３０１　モビリティ・マネジメントに関する調査研究（継続）

モビリティ・マネジメントに関する研究を継続する。本年度は、「日本モビリティ・マネジメント会議」（愛知県豊田市）や土木学会土木計画学研究発表会等に参加し、発表や情報交換・収集を実施した。

第13回日本モビリティ・マネジメント会議への参加と発表

＜開催概要＞

■開催日：平成30年7月27日（金）～28日（土）
■会　場：愛知県豊田市　名鉄トヨタホテル
■主　催：一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議



＜dec関連発表＞

・高齢者のマイカー依存脱却に向けたモビリティ・マネジメント
　～運転免許更新制度の改定を踏まえた公共交通利用促進プロジェクト～
・市民協働によるローカル線沿線マップ『鰐ぶらり』
・地域イベントと連携した親子対象のバス体験ブースの設置
・札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取組み

北海道運輸局等との以下の事業が、「平成30年度JCOMMプロジェクト賞」を受賞
題目：高齢者のマイカー依存脱却に向けたモビリティ・マネジメント～運転免許更新制度の改定を踏まえた公共交通利用促進プロジェクト～

第57回土木計画学研究発表会・春大会への参加と発表

＜開催概要＞

■開催日：平成30年6月9日（土）～10日（日）
■会　場：東京工業大学（大岡山キャンパス）
■主　催：土木学会

＜dec関連発表＞

・モビリティ・マネジメント教育の“継続・拡大”に関する研究－ 札幌市の取組事例より－
・モビリティ・マネジメント教育の『社会実装』に向けた探索的研究
・学習指導要領の変遷から見た社会基盤の扱いに関する－考察

３０２　沿道の環境の保全、活用に関する調査研究事業（継続）

道路沿道の景観保全や環境保全及び、その活用に関する調査研究を住民団体、地域団体の活動支援を含めて実施する。また、道路のオープン化や協働型インフラマネジメントの流れの中で、沿道住民と連携した活動に対する社会的価値評価手法（SROI等）の研究や道路の維持管理システム（集約看板等含む）、道の駅との連携、地域防災力の向上に関する研究を実施した。さらに、NPO法人日本風景街道コミュニティ等と連携して全国の活動団体との情報交換や交流事業を推進した。

道路沿道の景観保全や環境保全及びその活用に関する調査研究と住民団体、地域団体の支援

シーニックバイウェイ北海道の各ルートの地域住民や団体が行う景観、観光、地域づくり活動等への参加、事務局及び活動作業の支援を行っている（以下、今年度実施した事業の抜粋）。

4月17日　函館・大沼・噴火湾ルート役員会参加
5月16日　十勝平野・山麓ルート代表者会議参加
5月17日　トカプチ雄大空間代表者会議参加
6月12日　どうなん・追分シーニックバイウェイルート総会参加
6月　6日　天塩川流域ミュージアムパークウェイ代表者会議参加
6月11日　大雪富良野ルート代表者会議参加
6月11日　南十勝夢街道代表者会議参加
6月13日　萌える天北オロロンルート総会参加
6月19日　釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ総会参加
6月21日　支笏洞爺ニセコルート代表者会議参加
6月22日　シーニックカフェちゅうるいSROI意見交換会参加
10月20日～21日　日本風景街道大学・しずおか校参加　　他

トカプチ雄大空間代表者会議の様子（5月17日）

３０３　公共交通に関する調査研究（継続）

北海道における今後の公共交通やコミュニティ交通、小型モビリティ、貨客混載等のあり方について、調査・研究を継続実施。北海道内の交通計画を主な専門分野とする学識者と公共交通の最適化や効率性の向上、利用促進等に関する共同研究を実施した。また、研究成果を「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」等で発表した。

「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」での事例報告

＜開催概要＞

- 期日：平成30年10月27日（土）～28日（日）
- 場所：東洋大学白山キャンパス
- 主催：くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会
- 後援：国土交通省・厚生労働省等

＜dec関連発表＞

- 高齢者のマイカー依存脱却に向けたモビリティ・マネジメント
- バス運転体験会＆合同就職相談会
- 八戸市におけるバスパックの販売実績と可能性

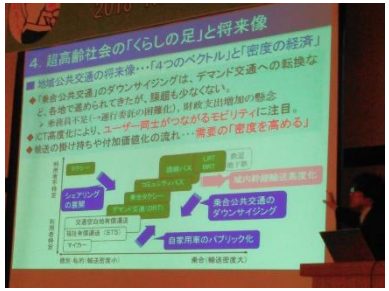
「第5回おでかけ交通博」での発表支援と事例収集

＜開催概要＞

- 期日：平成30年11月9日（金）～10日（土）
- 場所：秋田ビューホテル
- 主催：国土交通省東北運輸局、秋田県
- 協力：福島大学

＜dec関連発表＞

- 弘前市における公共交通再編と利用促進の取組
- 公共交通アテンダントによる利用促進



３０４　北海道エコ・モビリティに関する調査研究（継続）－（１）

「北海道エコ・モビリティ研究会」（座長:高橋清北見工業大学教授）において、フットパス、サイクリング、カヌー等の人力での移動を主としたモビリティと観光に関する北海道での展開可能性の調査・研究を行った。また、シーニックバイウェイ支援センターが運営する「さっぽろサイクルラボ」が実施する都市型サイクルツーリズムの展開や調査研究活動について、サッポロバイクプロジェクト等と連携して実施した。

道北モデルコースでの取組み

① 「TEPPENライド」「R3ツアー」の開催
平成30年9月22日（土）～24日（月・祝）の2泊3日で、旭川から宗谷岬までを目指すサイクルツアー「TEPPENライド」及び自転車やカヌー、公共交通で最北を目指す「R3ツアー」を実施した。

▲TEEPENライド宗谷岬のゴール

▲R3ツアーではカヌーも体験

② 利尻島サイクルバスの運行
路線バスと自転車を組合わせて、利尻島を1周できるように、島で運行する路線バスに自転車をそのまま積載できる「サイクルバス」を平成30年4月21日～10月31日に運行した。今年度は、40台回（昨年度実績：12台回）の利用があった。

▲サイクルバスにより自由にコースを選択できる

▲ルーカス氏も利尻島のサイクルバスを視察

③ スイスモビリティ関係者の視察実施
スイス・モビリティ財団からルーカス氏を招き、北海道エコモビリティの道北実証フィールドの視察や地域関係者との意見交換会を平成30年8月18日（土）～21日（火）に行った。

④ 研究会の開催
平成30年5月23日（水）及び平成30年12月3日（月）に研究会を開催した。

▲研究会には32名の関係者が参加

▲ルーカス氏に天塩川SBWを説明

３０４　北海道エコ・モビリティに関する調査研究（継続）－（２）

シーニックバイウェイ支援センターが運営する「さっぽろサイクルラボ」が実施する都市型サイクルツーリズムを展開し、自転車観光の可能性について調査・研究を行った。さらに、札幌市及び札幌近郊の自治体と連携して自転車観光の展開に向け課題を抽出し、解決方策を検討した。

さっぽろサイクルラボによる自転車ツアーの企画・開催

都市型サイクルツーリズムの構築を目指し『さっぽろサイクルラボ』のメンバー及び近郊の市町村（恵庭市、北広島市、当別町、石狩市、千歳市）と協力して、自転車、コミュニティサイクル及び公共交通等のエコモビリティを活用したツアーを全8回企画・実施し、参加者へのアンケート調査を実施した。

＜開催した自転車ツアーの概要＞

Vol.1	札幌街中	5月26日（土）	9:30～12:30	
Vol.2	定山渓	6月 9日（土）	10:00～16:30	
Vol.3	札幌街中	6月23日（土）	12:00～16:00	
Vol.4	恵　庭	7月 1日（日）	10:00～15:30	雨天中止
Vol.5	北広島	7月 4日（水）	10:00～15:30	雨天中止
Vol.6	当　別	7月21日（土）	10:00～16:00	
Vol.7	恵　庭	8月26日（日）	10:00～15:30	
Vol.8	札幌南区	9月 1日（土）	10:00～15:30	
Vol.9	札幌西区	9月 2日（日）	13:00～15:30	
Vol.10	千　歳	9月12日（水）	10:00～15:30	地震中止
Vol.11	石　狩	9月15日（土）	10:00～15:30	
Vol.12	北広島	9月17日（月）	10:00～15:30	台風中止

自転車ツアーのチラシ

サイクリングツアーガイド養成講座の開催

- ●開催日時：平成30年6月2～4日（土・日・月）
- ●開催場所：札幌市内
- ●受講者：9名（内資格取得者7名）
- ●監修・実施：日本サイクルツーリズム推進協会

ガイド養成講座の様子

JCTAのガイド認定証

３０５　福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究（継続）

障害者の移動を支援するトラベルサポーター制度や冬期における福祉交通、バリアフリーツーリズムに関する研究として、「（仮称）北海道バリアフリーツーリズム推進協議会」の運営支援やバリアフリーボランティアの育成を行った。また、「福祉のまちづくり学会北海道支部」の事務局支援を行った。

日本福祉のまちづくり学会北海道支部の活動支援

日本福祉のまちづくり学会北海道支部主催のセミナーとして「身近な生活と交通」（札幌市：平成30年7月10日）、「バリアフリー法の関連ガイドライン改定に関するセミナーin札幌」（札幌市：平成30年7月11日）、「鉄道と地域交通」（札幌市：平成30年10月19日）を開催し、その準備等の支援を行った。また、北海道支部の総会及び事務局として活動を行った。

「バリアフリー法の関連ガイドライン改定に関するセミナーin札幌」

北海道の交通を考える連続セミナー「鉄道と地域交通」

３０６　「ふゆトピア都市」に関する調査研究（継続）－（１）

冬を旨とする「ふゆトピア」の実現に向けて、ウインターライフ推進協議会（会長：高野伸栄北海道大学教授）に参加し、冬期歩行者転倒防止など、冬を安全・安心・快適に過ごすための情報発信を産学官民の連携を通して推進した。

■ウインターライフ推進協議会への参加

○　ウインターライフ推進協議会の事務局として活動に参加し、冬期転倒事故防止、安全な除雪作業、冬の健康づくり、冬の遊び・雪氷教育など、冬を安全・安心・快適に過ごすための普及啓発活動及び関連する調査研究を実施。

【今年度の事業概要】

○　冬道転倒事故防止啓発サイト「転ばないコツおしえます。」による情報発信

○　雪かき情報サイト「除雪のコツおしえます。」による情報発信

○　砂箱広告による転倒防止啓発活動と転倒防止のための砂まき（道路協力団体として実施）

・国道に設置される砂箱に冬期歩行者の転倒防止のための啓発表示と企業広告を合わせたシール30枚を貼り付け。
また、転倒防止を目的とした砂まきを実施した。

○　札幌市の砂まきキャンペーンに参加（12月）

「転ばないコツおしえます。」
トップページ

企業広告付き転倒防止
啓発シールの貼付状況

３０６　「ふゆトピア都市」に関する調査研究（継続）ー（２）

「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会（会長：小磯修二元北海道大学特任教授）」（略称：ボラベーション研究会）の事務局として運営を行い、企業や大学、地域のNPO等と連携し、高齢過疎地域における地域課題の解決を目的とした広域的な共助システムの構築に向けて、実践的な調査研究活動を実施した。

冬期におけるボランティアツーリズムのプログラム開発

高齢化が進み、除雪の担い手が減っている地域において、冬期に人が訪れる仕掛けとして雪かきボランティアツアーを開催した。雪かきボランティアツアーを介した広域的な人的交流が地域活性化につながる方策について調査研究を行った。

上富良野町ツアーでは、除雪の負担を少なくするためのマッスルスーツを参加者に試してもらうという新たな試みにもチャレンジした。

＜実施した雪はねボランティアツアーの概要＞

- 岩見沢美流渡ツアー　1月19日（土）　8:00～17:00　参加者33名
- 倶知安町六郷ツアー　1月26日（土）　8:00～20:00　参加者27名
- 倶知安町琴和ツアー　2月10日（日）　8:00～20:00　参加者22名
- 上富良野町ツアー　2月　2日（土）　8:00～20:30　参加者35名

図　ツアーチラシ（H30年度版）

３０８　吹雪時の視認性に関する調査研究（継続）

北海道大学と共同で研究している画像解析技術を用い、インターネット上の画像から、現地の視界状況を評価、把握し、道路管理者や道路維持業者に対する視界情報の提供を試行した。
平成30年度からは、車両に搭載されたカメラの動画、画像についても、評価、分析を行った。

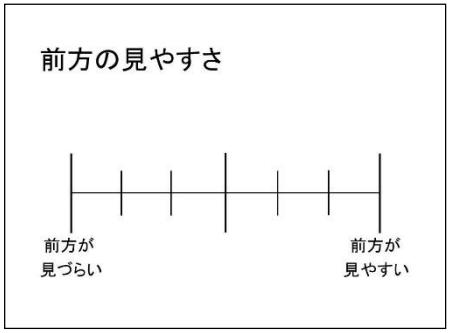
【今年度の事業概要】

○　インターネットで提供されている画像から、視認性を数値化するシステムを用い、現地の視界状況を評価、把握し、道路管理者や道路維持業者に対して、視界情報提供を試行した。

○　車両搭載カメラの画像に対して、人間が目視して感じられる視界状況を把握するための被験者実験を行い、被験者実験結果と車両搭載カメラの画像から得られる視認性の評価値についての分析を行った（図1参照）。

○　車両搭載カメラの動画に対して、連続的に画像解析を実施し、道路上の視認性を把握できるかを試行した。

○　国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所が公募した共同研究「画像解析による吹雪量推定に関する研究」の共同研究対象機関として、吹雪量、吹きだまり量を推定する技術開発のための素材となる画像を収集した。



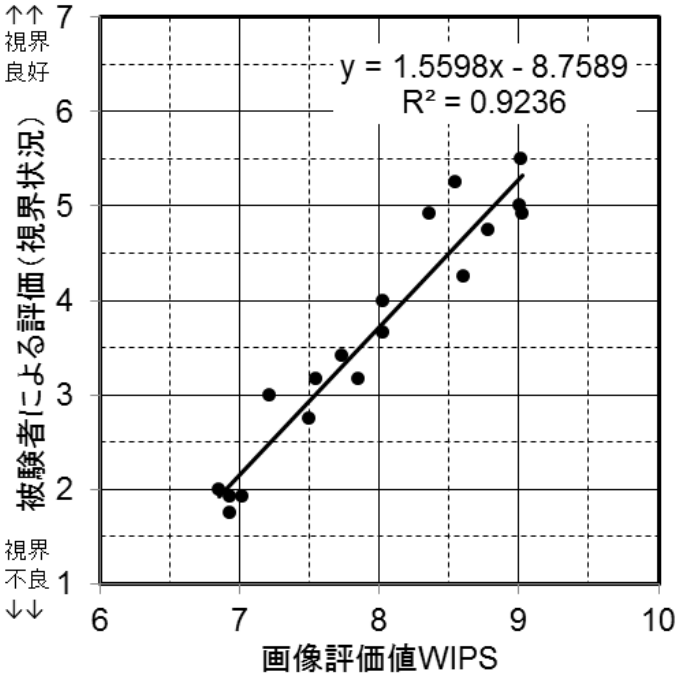


図1　被験者実験の実施状況（左上）、回答票（右上）と分析結果（下）

３０９　積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究（継続）

北海道の道路木本緑化に関する既存文献資料の収集・整理及び現地調査等を行い、積雪寒冷地に適した道路緑化樹の整備・保育手法に関する研究を継続して行った。

1.緑化勉強会の開催

- 開催日時：2018年6月29日（金）13:00-17:00
- 場　所：環境林づくり研究所（美唄市）
- テーマ：氷河期を乗り切る伏条繁殖

2.現地調査の実施

- 上士幌町十勝三股地区の植生復元のモニタリング調査
- 道路防雪林の林帯構成及び雪丘形状調査

写真　十勝三股植生復元状況

3.研究発表

- 日本雪氷学会北海道支部研究発表会にて、「樹木の栄養繁殖による氷河期の乗り切り――特に伏条殖について」と題して口頭発表（2018.5.12）
- 雪氷研究大会（2018年・札幌）にて「樹木の開葉時期（芽吹き～開葉～展葉～新条伸長）と晩霜被害について」と題して発表（2018.9.9-12）：誌上開催
- 第34回寒地技術シンポジウムにて「冷温帯における気象害への樹木の対応について―雪害、霜害および寒乾害への適応性」と題して口頭発表（2018.12.7）
- 第18回「野生生物と交通」研究発表会にて「春期のエゾシカロードキルと積雪との関係」と題して口頭発表（2019.2.19）

4.技術資料

- 貴重植物の移植手法及び厄介な植物の駆除手法（斎藤新一郎著）のドラフト作成

３１１　エコ･コリドールに関する調査研究（継続）－（１）

ロードキル調査報告書(アニュアルレポート)を作成する。さらに、北海道内に生息する野生動物の分布や移動に関する調査を実施するとともに、酪農学園大学、帯広畜産大学等との共同研究を含めた調査研究を実施し、研究成果の発表を行った。9月に開催されたIENE(Infra Eco Network Europe)2018国際会議に参加し、研究成果の発表及び情報収集を行った。IENE、ICOET等を通じて海外でのエコインフラに関する事例の収集及び調査研究を継続実施した。道路生態研究会の活動に参加するとともに、ロードエコロジー研究会等の活動を行った。また、RCE(ESD地域拠点)北海道-道央圏協議会に参加した。

道路生態研究会への参加

道路生態研究会が開催する研究発表会などへの参加により、情報交換、人的ネットワークの構築などに取り組んでいる。

＜主な活動＞

- 6月9日(土) 第4回通常総会・第6回研究発表会への参加・発表
  (開催地:公益財団法人　高速道路調査会-東京)
  発表タイトル:シカ進入防止施設への雪の影響

- 11月11日(日) 公開シンポジウムへの参加
  「人口減少社会における緑と生き物の共存を考える」
  (開催地:麻生大学-神奈川県)

シンポジウムチラシ

研究発表会の様子

RCE(ESD地域拠点)北海道-道央圏協議会への参加

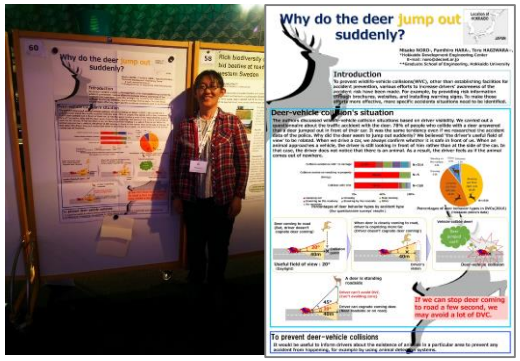
- メーリングリストを活用した情報交換
- 勉強会への参加:「持続可能な開発目標(SDGs)」の“伝え方”勉強会　8月31日(金) 札幌エルプラザ
- 冊子「SDGsの要素と実践」内への掲載

３１１　エコ･コリドールに関する調査研究（継続）－（２）

インフラエコネットワークに関する欧州会議(IENE2018)での発表及び参加

- 開催日程:9月10日(月)～9月14日(金)　開催地:オランダ(アイントホーフェン)
- ロードキルに関する分析・対策、分断化対策、動物検知システムなどに関する様々な発表テーマ
- ポスター発表:Why do the deer jump out suddenly?
  （シカはなぜ、突然飛び出すのか？）

ベルギーのグリーンブリッジ



ポスター発表の様子

プレナリーセッションの様子

日本からの参加者と会場にて

「野生生物と社会」学会でのテーマセッション企画及び参加

- 11月23日(金)～25日(日)（開催地:九州大学-福岡県）
- テーマセッション:
  「野生生物と交通」に関する話題ー活きるべきロードキルデータの開催(11月24日(土))

テーマセッションの様子

「野生生物と交通」に関する懇談会の開催

ロードエコロジー研究会と共催で、懇談会を開催した。

日　時:2月20日(水)　場　所:dec4階大会議室

主　催:(一社)北海道開発技術センター/ロードエコロジー研究会

懇談会の様子

３１２　エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究（継続）－（１）

被害対策の検討に必要となるエゾシカの行動や生態に関する基礎的な調査研究、及び調査の省力化に向けた調査手法の技術開発や交通事故対策としての新たな対策手法の検討を行った。鉄道総合研究所や他の研究機関等との共同研究を含めた調査研究を実施し、研究成果の発表を行った。また、昨年度に引き続きエゾシカ問題に係る関係機関と協議及び情報交換、「エゾシカの被害と対策～交通問題編～」の出版に向けた、エコインフラやロードキル対策などの対策事例の収集を実施した。

鉄道総合研究所との共同研究の実施（継続）

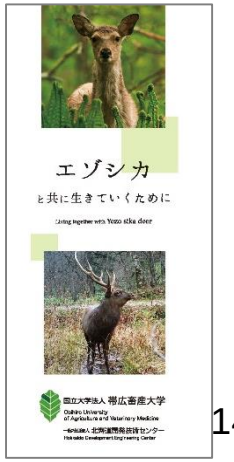
- 鉄道総合研究所で実施した走行調査に関する解析方法等について、共同研究を実施した。
- JRグループ鹿担当者会議への参加
  第10回JRグループ鹿担当者会議（鳥取県）に参加し、話題提供のほか、情報交換を行った。
  平成30年5月10日（木）～11日（金）　開催地：鳥取県鳥取市

画像処理による動物検出システムの技術開発（継続）

- 画像処理による動物検出システム技術の改良に向けて、既存画像を活用したシステムの改善と行うとともに、（一社）アニマルパスウェイと野生生物の会で所有している動画データを提供いただき、多様な調査での活用可能性について、検討している。

帯広畜産大学発行啓発資料への協力

- 帯広畜産大学でシリーズ発行している啓発用パンフレットについて、エゾシカ版の製作協力を行った。
- パンフレット：エゾシカと共に生きていくために
  （発行：帯広畜産大学、協力：北海道開発技術センター）



エゾシカリーフレット表紙

３１２　エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究（継続）－（２）

名寄市北国博物館での特別展「エゾシカ」へ展示の協力

- 特別展「エゾシカ」開催に際し、名寄市北国博物館より協力依頼を受け、エゾシカの交通事故関連の展示協力を行った。

  展　示　期　間：2018年7月1日～8月26日

  展示協力内容：過去の研究発表ポスター、ディアホイッスル、注意喚起リーフレット、エゾシカの衝突動画、エゾシカの飛び出し動画、警戒声を発するエゾシカの動画
- エゾシカの交通事故及び展示に関するアンケート調査を実施し、その結果を日本哺乳類学会で発表した。

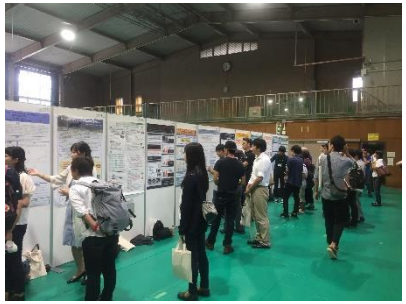
配布用に制作した注意喚起リーフレット

特別展「エゾシカ」ポスター

特別展「エゾシカ」の様子

日本哺乳類学会での発表及び参加

- 9月7日（金）～10日（月）（開催地：信州大学-長野県）
- ポスター発表：展示を通してエゾシカの交通事故を考える



ポスター会場の様子

第18回「野生生物と交通」研究発表会での発表

- 発表：春期のエゾシカロードキルと積雪との関係（2月19日（火））

安全運転講習会（主催：天塩町安全交通協会）でのシカ事故関連の資料提供

３１３　土木史に関する調査研究（継続）

北海道の土木史や道路史に関わる調査研究を継続して行った。調査は文献や現地での調査及び人物への聞き取り調査等で行い、特に積雪寒冷地において発達した技術等に着目した調査を実施するとともに、土木史に関係する活用事例（土木遺産等）に関する調査も行った。また、北海道のみちの歴史をたどり、みちのあり方や制度、道路、交通政策に関する研究を行う「北海道みちの歴史研究会」（会長：高野伸栄北海道大学教授）に参加し、その運営を支援した。

土木学会の委員会（土木史、土木遺産）への参加

土木史研究委員会及び北海道支部土木遺産委員会の幹事会活動と論文発表による土木史の研究と普及

＜主な活動＞

- 6月15（金）～17日（日）　第38回土木史研究発表会の運営、参加・発表（開催地：日本大学工学部（郡山市））
  発表タイトル：土木遺産ツアーにおける土木コミュニケーションに関する研究（その２）
- 8月29日（水）　全国大会CSセッション「土木遺産にみる積雪寒冷地の開発技術」の運営（開催地：北海道大学）
  発表タイトル：胆振日高の戦後すぐの永久橋梁化事業
- 11月10日（土）　土木遺産ツアー「川が生み出す100年の恵み」の企画・実施
  参加者：43名（催行実施：（株）シィービーツアーズ）
- 1月26日（土）　土木学会北海道支部年次技術研究発表会（開催地：苫小牧高専）
  発表タイトル：社会インフラツアーにおける土木遺産の活用とその効果に関する研究（その３）

土木遺産ツアーチラシ

北海道命名150年を記念した北海道開発局の取組への参加

北海道の暮らし・経済・安全を支えているインフラを一般の方々により身近なものにする

＜主な活動＞

- 6月30日（土）　道新文化センター「北海道を支えた土木インフラ事業の150年」講師
- 8月31日（金）　土木学会全国大会エクスカーションツアーへの企画協力
- 2月17日（日）　キタフラ（北海道インフラフェスタ）に協力（コメンテーター）

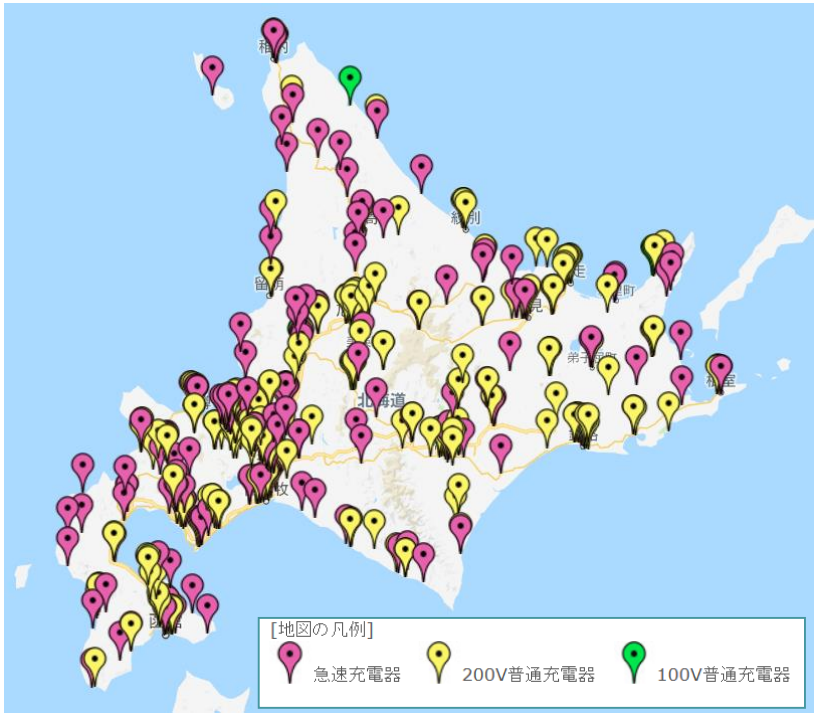
３１４　環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究（継続）

「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」の事務局運営を行うとともに、積雪寒冷地における電気自動車（EV）等の普及に向けて、EV充電器等のインフラ整備や、EV普及促進の問題点・課題抽出のための調査研究を実施した。また、CO2削減や省エネルギー化を課題テーマとして、北海道バイオディーゼル研究会の事務局運営を行うとともに、バイオディーゼル燃料等の利用促進に関わる調査研究を継続実施。

電気自動車（EV）の普及促進

【概要】
「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」（会長：小川英之北海道大学教授）による道内外へのEV・PHV普及促進として、新型電気自動車やEV充電器マップの広報を行った。

▲平成30年度　EV充電器マップ更新のご案内（研究会HP）



※上記のEV充電器マップの情報は，当研究会会員からの提供情報及び事務局で調べた情報に基づき、一般開放されている充電器情報としてとりまとめています。
（この情報は平成30年5月1日現在です）。北海道内のEV充電器の掲載に向けて取り組んでおりますので、未掲載の情報や情報の誤りがありましたら、当研究会事務局（ev-phv-hokkaido-jimu@decnet.or.jp）まで情報提供をお願いします。

▲北海道のEV・PHV充電器マップ

３１６ 北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究（継続）－（１）

北海道の地域ブランド力を活かし、農水産業、観光業、流通業、運輸交通業、建設業等の連携による第6次産業の展開によって、新しいビジネスモデルの開発や既存ビジネスの拡大手法等について調査研究を行った。

都市農村交流のプログラム開発

○ ツアー名　農業体験ツアー in 倶知安
○ 目的・趣旨
① じゃがいもで有名な倶知安町の農場で、野菜の収穫体験を行い、倶知安の農業生産物のファンを増やす。
② 地域住民によるお昼ご飯のもてなし等から、都市と農村の交流をすすめ、移住・定住、婚活などへ繋げる。
③ 都市にある企業と農村にある生産者の交流に発展させ、新たな商品開発や販路拡大に繋げる。

○実施予定日時
平成30年9月8日(土)8:00～19:00
○参加予定人数　65名

⇒ H30年北海道胆振東部地震発生のため、中止

ツアー募集チラシ

３１６ 北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究（継続）－（２）

道北地域の資源管理・国土管理と地域活性化の現状と課題、地域ブランドの創造について、「道北の地域振興を考える研究会（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター資源管理学分野／名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター）」に参加し、情報交換を継続するとともに、当該地域を対象とした地域活性化の調査研究を行った。

2018年度道北の地域振興を考える研究会ｾﾐﾅｰの開催

□日時：平成31年3月23日（土）
□会場：名寄市立大学（名寄市）

□主催：道北の地域振興を考える研究会
□共催：名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター

□テーマ「北海道北部地域の観光戦略を考える」

◎今野　聖士　会員（名寄市立大学）
「北海道における観光の現状と地域農業との関係性」

◎杉川　毅氏（宗谷シーニックバイウェイ事務局、
稚内印刷（株）代表取締役社長）
「宗谷地域における観光の現状と広域連携に向けた課題」

◎日置　友幸　会員（中川町観光協会）
「上川北部地域における観光の広域連携に向けた取り組み」

◎池田 俊一氏（名寄市教育委員会教育部スポーツ・合宿推進課主幹）
「冬季スポーツ拠点化事業と交流人口の拡大について」

新聞　2019年(平成31年)3月26日(火曜日)

観光戦略をテーマに
道北の地域振興セミナー
さまざまな視点や取り組みで

【名寄】道北の地域振興を考える研究会（清水池義治会長）主催の2018年度セミナーが、23日午前9時から名寄市立大学図書館で開かれ、それぞれの専門を通して、さまざまな視点や取り組みからの観光振興を考えた。

恒例のセミナーで、同学コミュニティケア教育研究センター（結城佳子センター長）と農業、でも収穫体験と共催。本年度は「北海道北部地域の観光戦略」をテーマに開催した。

同学教養教育部講師の今野聖士さん（同研究会員）は「北海道における観光の現状と農業との関係性」と題して報告。

農業と観光の関係性で「古くは地域農業と切り離し、観光客を呼び込むための『観光農園』が始まり。『観光農業』でも収穫体験とテンツとする場合、農業者の負担を伴えることが不可欠とし「適切なルートや方法で農村景観、農業体験を楽しめる『ガイド』が必要と考える。繁忙期のおもてなしが苦手な農家でも体験を提供する」などと指摘した。

農業体験を観光コンテンツとする場合、農業者の負担を伴えることが不可欠とし「適切なルートや方法で農村景観、農業体験を楽しめる『ガイド』が必要と考える。繁忙期のおもてなしが苦手な農家でも体験を提供する」などと指摘した。

宗谷観光の現状について「夏型観光が中心で、冬の観光客を伸ばすことが課題。経済効果などの面で宗谷は道北黒字。稚内や利尻・礼文がメインになっている」と話した。

広域観光の課題では、おもてなし、体験メニューに移行、自然や景観が観光資源になり始めている」と現状を伝えた。

広域的取り組みで昨年9月に旭川から宗谷岬まで自転車で走破した「TPPPDV.RIDE」、町内では自転車レンタルや町民サイクリング行事などを紹介。今後で「レンタカーやJRなどの移動手段と組み合わせながら、広域レンタサイクルと乗り捨てシステムを試行できれば、手軽や自的で自由な選択肢が生まれる」と語った。

名寄市教育委員会スポーツ・合宿推進課の池田俊一主幹は「冬季スポーツ拠点化事業だが、スキージャンプ台に上がったりすることが、観光振興にもなるのではないかと考えている」などと話した。

観光振興を柱とした報告に耳を傾けたセミナー

名寄新聞
2019年3月26日

Scanned with CamScanner

３１７　気候変動下における雪氷環境に関する調査研究（継続）

気候変動が冬期道路交通や社会生活に及ぼす影響について、多方面から調査を実施している。今年度も、道東地域の複数箇所において、防雪柵および防雪林周辺での吹きだまり等に関する現地調査を行った。防雪柵の調査では、インターバルカメラと気象計器による連続観測を行ったほか、UAVの撮影画像からSfM･MVS技術により三次元地形モデルを作成し、詳細な吹きだまり形状のデータを収集した。また、再生可能エネルギーを利用した歩道融雪を北海道で展開するための基礎実験を、北斗市で継続して実施した。

【今年度の事業概要】

○　中標津町の西養老牛地区および一般国道244号標津の防雪柵設置箇所に、簡易型タイムラプスカメラと気象計器を設置し、各防雪柵の吹きだまりの成長過程を観測した。また、UAVの撮影画像からSfM･MVS技術により三次元地形モデルを作成し、詳細な吹きだまり形状のデータを収集した。

○　吹雪に通行止めが頻発する一般国道243号の仁多付近において、防雪林の状況による視程障害の発生状況、道路横断方向の積雪状況を観測した。

○　北斗市における地中熱ヒートパイプ方式の歩道融雪試験箇所において（設置は2016年11月）、融雪状況と放熱能力に関する諸データを継続して取得した。

図1　一般国道244号での観測状況

図2　一般国道243号での観測状況

３１８　北海道の地域防災に関する調査研究

北海道における地域防災力の向上に向けて、関係機関・団体と連携しつつ、地域防災力向上方策等について検討したほか、防災教育メニューや教育ツールに関する調査研究を実施した。

平成30年後志地区ボランティア連絡協議会研修会（ボラネット事業）への防災出前展示

地域のボランティア活動実践者と社協職員が交流し、情報交換、課題を共有する連絡協議会へ協力として参加し、非常食の試食や防災グッズの展示、段ボールベットの体験など防災出前展示を行った。

［日時］平成30年5月13日（日）13：15～15：00
［場所］倶知安町ホテル第一会館
【第1部】13:20～14:25 講演　日赤　災害時高齢者生活支援講習~もしもの時の、じぶんの安全、みんなの安全・自助・共助を考えてみよう~
【第2部】14:45～15:00　全大会　後志地区ボランティア連絡
【出前展示】防災食の試食、暴風雪キット・パネル展示、段ボールベットの体験など

講演会での実践演習

段ボールベットの紹介

防災出前展示の様子

9月6日に発生した平成30年北海道胆振東部地震及び停電に関する職員の防災についての意識及び行動に関する調査研究の実施

9月6日に発生したH30年北海道胆振東部地震で被災した全dec職員を対象に、地震及び停電災害に遭遇しての意識・行動に関するアンケート調査を実施し、今回の災害における防災検証・研究を行った。

調査の結果、今後、自宅での防災対策は9割の人が行うと回答しており、防災意識が高まっていた。また、被災時における連絡体制を検討したり、職場で被災した時の備えや防災対策について意見をとりまとめた。

第4回避難生活学会への参加

避難所並びに避難生活に関する実践研究者を対象に、交流と協力により災害時の避難生活に関する検証・研究を行い、被災者の安全な生活の向上に寄与する事を目的とする学会へ参加し、知見を深めるとともに全国の実践研究者と交流を図った

［日時］平成30年12月8日（土）、9日（日）
［場所］聖徳大学講義室
●テーマ「避難環境の標準化と均質化」
・大阪北部豪雨、西日本豪雨、北海道胆振東部地震からみた「簡易ベッド導入の課題」「避難所での食事・トイレの問題」
・海外の災害対策から学ぶ：備蓄と災害時職能支援者の必要性について
・福祉的避難所、応急仮設住宅、災害公営住宅を考える
＜緊急シンポジウム＞
災害時のマスコミ報道による健康被害予防及び避難環境改善における重要性と課題

日本赤十字北海道環濠大学災害教育センター
根本氏の発表

３１９　北海道新幹線開業による２次交通及び周遊観光に関する調査研究（継続）

北海道新幹線の経済効果を全道に広く波及させるために、北海道新幹線とレンタカーを組み合わせた北海道観光の可能性や二次交通のあり方などについて調査研究を行った。具体的には、道南地域の周遊観光向上策（ドライブ特割キャンペーンやサイクルツアーの実施など）について検討を行った。検討にあたっては、シーニックバイウェイや道南の観光関係者などによる検討会を開催した。

■道南地域の周遊観光向上策の検討・実施

○豊かな自然、文化、歴史の宝庫である道南地域において、シーニックバイウェイ関係者や自治体、観光事業者等が連携し、レンタカーや自転車等による周遊観光促進事業を検討・実施。

【今年度の事業概要】

特割キャンペーン

北海道命名150年をシーニックバイウェイ北海道で巡る！

【主　催】どうなん・追分シーニックバイウェイルート運営代表者会議
　　青函フェリー・JAF（日本自動車連盟）
【協　力】一般社団法人　北海道開発技術センター

サイクルモニターツアーチラシ

モニターツアーの様子（2018年10月6～8日）

サイクルツーリズムセミナーチラシ

○松前・江差の歴史・文化探訪

サイクル検討会及びモニターツアー

【企画協力】歴史・文化を生かした南北海道
　　サイクルツーリズム推進協議会
【協　　力】一般社団法人　北海道開発技術センター
【問い合わせ先】
　　株式会社JTB北海道事業部函館オフィス

第1回検討会の様子（2018年7月18日）　江差～サイクリング・フォー・チャリティ2018の様子（2018年7月21日）

３２０　学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究（継続）

モビリティ・マネジメント教育等、学校教育と連携した社会的ジレンマ問題の解消に向けた調査研究を実施した。札幌市の路面電車のループ化と合わせて実施する路面電車沿線小学校との連携プロジェクトや、㈱アドバコムが札幌市及び東京都で各10万部発行するこども環境情報誌「エコチル」と協働による「公共交通魅力向上アイデアコンテスト」等を実施した。また、（公社）土木学会が毎年、開催している「土木と学校教育フォーラム」に参加し、発表や情報交換・収集を実施した。

みんなで考える公共交通アイデアコンテスト

＜目的＞

・公共交通に関心を持つ「きっかけ（動機付け）」づくり

・将来の乗務員増加

＜実施内容＞

・エコチル紙面で『公共交通アイデアコンテスト』を実施

・札幌市長賞、札幌市交通局賞・市内バス事業者3社の賞・JR北海道賞を選定。

・各賞の受賞者を2月の“さっぽろ雪まつり”にて表彰

●主催：㈱アドバコムエコチル編集部

●共催：（一社）北海道開発技術センター

●後援：札幌市・札幌市教育委員会・ジェイ・アール北海道バス㈱・㈱じょうてつ・北海道中央バス㈱

第10回土木と学校教育フォーラムへの参加

＜開催概要＞

■開催日：平成30年7月29日（日）

■会　場：土木学会

■主催：「土木と学校教育会議」検討小委員会

＜実施内容＞

・パネルディスカッションテーマ：

「まちづくりを通して、子供は何を学ぶのか」

コーディネーター：吉門 直子（文部科学省）

パネリスト：水山光春

（青山学院大学教育人間科学部 特任教授）

倉石智幸

（新潟大教育学部学附属長岡小学校教諭）

原　文宏

（（一社）北海道開発技術センター）

３２１　北海道の歴史･文化を活用したヘリテージリズムに関する調査研究
（１）アイヌ文化勉強会の開催

近年、国や北海道におけるアイヌ政策が推進されており、また、欧米諸国を中心に、アイヌ文化への関心が高くなっていることなどから、アイヌ民族文化、縄文文化、擦門文化等の文化資源を活用したツーリズム、またヘリテージツーリズムと密接に関連しているネーチャーツーリズムに関する情報収集・調査研究を行った。ネーチャーツーリズムについては、世界最大の取り纏め団体、ATTAへの参加と情報交換などを実施した。

平成26年度から月1回、藤村久和北海学園大学名誉教授を講師としてアイヌ文化勉強会（アイヌ文化を読む会）を開催していたが、今年度も自主事業として継続し、平成31年5月で58回を数える。また、平成27年8月からアイヌ語地名についても文化の勉強会とは別に勉強会を月に1度実施している。

両勉強会共、藤村氏が主催するアイヌ語地名研究会に依頼して実施している。両研究会合わせて毎回35名程度が参加しており、一般人の他、道庁、旅行社、博物館、寒地土木研究所関係者も参加し、本物のアイヌ文化を学べる貴重な機会として好評。

勉強会は、ジョン・バチェラーの著書をテキストとし、その内容に藤村氏がコメントするかたちで進められている。今年度現在までの各回の具体的内容は以下のとおりである。また、この勉強会の内容の概略を開発こうほうに5回掲載。来年度も引き続き掲載予定。9月18日には、地名勉強会で学んだ大友掘の跡地を検証するツアーを実施した。

開発こうほう記事

4/3 アイヌの出産　5/8　アイヌの婚姻制度　6/5　イオマンテ（熊祭り）
7/3　イオマンテ2（小熊の育成）　8/7 アイヌの始祖神
9/4 カワウソと物忘れ　10/2 カワウソと巫術
11/6植物の利用　12/4　雨乞い　1/8 巫術
2/6蛇　3/6 様々な巫術

アイヌ語地名勉強会では、山田秀三氏の「札幌のアイヌ語地名を尋ねて」を使って地形を参照しながらアイヌ語地名を学んでいる。

大友堀探索ツアー

勉強会の様子

３２１　北海道の歴史･文化を活用したヘリテージリズムに関する調査研究
（２）アドベンチャーツーリズム関係

ATTA（アドベンチャー･トラベル･トレード･アソシエーション）会員として広報、世界サミット（ATWS）用のブース確保。また、札幌でのATTAの広報イベントアドベンチャーコネクト（９月１８日）、バイヤー12名、メディア6名が世界各国から来道し開催されたアドベンチャーウィーク商談会（３月４日）に参加（オブザーバー）した。

昨年度から継続しているATTA関連で、会員専用サイトで情報発信を実施している。
自然に恵まれ、アイヌ文化の存する北海道のアドベンチャートラベルに関する情報を、将来、この分野の有望なマーケットとる欧米に向けて広報、及び情報取集を実施した。

9月18日ATTA
アドベンチャー
コネクト（札幌）

3月4日　ATTA
アドベンチャー
ウィーク商談会（札幌）

ATTAウェブサイトでの広報例
左上：利尻山ーサロベツ原野から　右上：五稜郭（春期）
左下：大雪山　右下：五稜郭（冬期）

４２１　寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理（継続）

雪氷学会、雪工学会、寒地技術シンポジウム、土木学会土木計画学研究委員会の他、米国運輸調査委員会（TRB）、国際雪工学会等の国内外の会議やシンポジウム及び各種研究機関等との交流を通じて、寒地技術や交通政策・地域政策に関する技術情報を収集、整理した。

日本雪氷学会と日本雪工学会が主催する雪氷研究大会（2018・札幌）に論文投稿を行った（地震のため大会は誌上開催となった）。また、寒地技術に関する情報交換を行った。また、12月に開催された寒地技術シンポジウムにて論文発表、技術交流を行った。

□雪氷研究大会（日本雪氷学会、日本雪工学会）

開催予定期間：2018年9月9日（日）～9月12日（水）

開催予定場所：北海道科学大学

（地震のため誌上開催となった）

論文：

・樹木の開葉時期（芽吹き～開葉～展葉～新条伸長）と晩霜被害について（斎藤新一郎）

・雪道における自己転倒者の傷病の特徴について（永田泰浩、金田安弘）

・豪雪地の女性高齢者の自立生活維持に必要な体力

※著者名はdec関係者のみ記載

□寒地技術シンポジウム

期間：2018年12月5日（水）～12月7日（金）

場所：札幌コンベンションセンター

発表論文：

・平成30年北海道胆振東部地震及び大停電による市民の意識と行動の変化について（中前千佳）

・網走地域における吹きだまり予測情報提供システム（吹雪丸）の試行運用（金田安弘、越後謙二、永田泰浩）

・北海道胆振東部地震後の想定される雪と地震の複合災害（金田安弘）

・再生可能エネルギー利用歩道融雪施設の北海道での展開に向けた基礎実験（１）（大川戸貴浩）

・冷温帯における気象害への樹木の対応について～雪害、霜害及び寒乾害への適応性（斎藤新一郎）

・札幌市の雪道における自己転倒者の傷病（永田泰浩、佐藤金八、金田安弘）

・つるつる予報情報の精度向上のための分析（永田泰浩、佐藤金八、金田安弘）

４２２　技術資料等のデータベース化に関する調査研究（継続）

業務関連資料のデータベース化、成果品等のデジタル化を図り、管理システムを構築している。

○　decサーバーを活用し、収集資料のデータベース化

寒地技術や道路事業に関する資料を収集し、随時、decサーバー内でデータベース化を行った。

■主な資料

・論文集（寒地技術シンポジウム、日中冬期道路ワークショップ等）

・写真資料

データベース画面
（野生生物と交通）

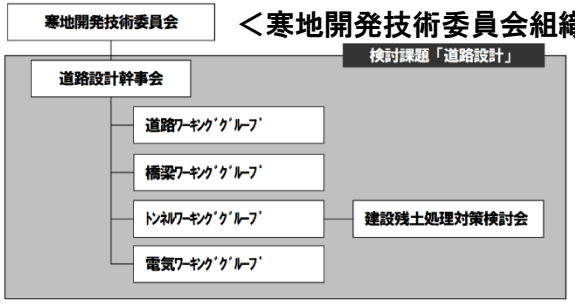
４２３　「寒地開発技術委員会」の設置（継続）

寒地開発技術の開発動向や方向性の検討を行うとともに、道路事業に関わる設計基準等の検討を行った。

平成30年度寒地開発技術委員会の開催

◎日時：平成30年07月24日（火）
◎場所：一般社団法人北海道開発技術センター大会議室
◎内容：前年度研究報告／当年度研究方針について
◎委員（●印：委員長、五十音順、敬称略）
　蟹江　俊仁　北海道大学大学院工学研究院教授（構造）
　武市　　靖　北海学園大学工学部教授（舗装）
　苫米地　司　北海道科学大学学長（雪氷）
　能登　繁幸　日本技術士会北海道本部特別顧問（土質）
　萩原　　亨　北海道大学大学院工学研究院教授（道路）
　三上　　隆●北海道大学名誉学長

＜寒地開発技術委員会組織図＞

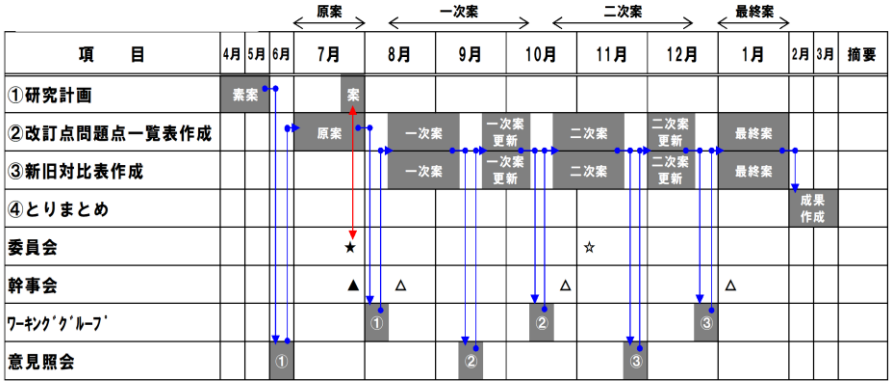


寒地開発技術委員会委員長中間報告

◎日時：平成30年12月27日（木）
◎場所：一般財団法人北海道道路管理技術センター
◎内容：当年度中間報告について
◎三上　隆委員長／和田芳明幹事長ほか2名

検討課題「道路設計」の研究

積雪寒冷地の道路設計を課題に、道路技術基準類の改訂と現場ニーズを踏まえて、北海道開発局道路設計要領に反映すべき内容を検討した。



【凡例】★：委員会、☆：委員長への報告／▲：幹事会、△：幹事長への報告

平成30年度道路設計幹事会の開催

◎日時：平成30年08月02日（木）
◎場所：一般社団法人北海道開発技術センター　4階　大会議室
◎参加：和田芳明幹事長（弊社企画部長）以下幹事9名
◎内容：当年度研究方針について

平成30年度ワーキンググループの開催

道路設計幹事会を踏まえて、上の工程表のとおり、道路・橋梁・トンネル・電気ワーキンググループを各3回（8月・10月・12月）開催。

４２４　インターンシップ制度（継続）

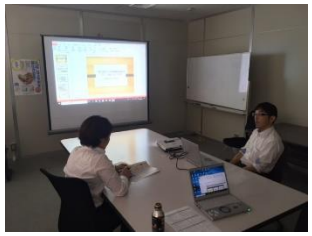
decでの勤務が可能な大学院学生を対象に、働きながら研究する場を提供する制度を継続するほか、大学生や民間企業からの研修生なども受け入れている。今年度は、北見工業大学から１名をインターン生として受け入れた。

インターンシップの開催

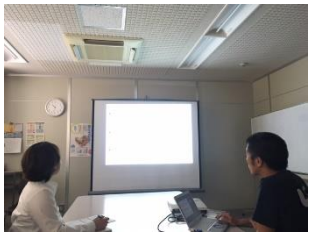
開催日：平成30年9月5日～9月7日（北海道胆振東部地震のため、実質5日のみの実施）

インターン生（院生）：

●北大工学部　環境社会工学科
　資源循環システムコース　修士１年



阿部第1部長より
decの説明



永田首席研究員より
自主事業の説明

中前研究員より
フィールドワークの事前説明

プログラム：

日程	内容
９月５日	・インターンシップの概要説明（会社理念、組織、業務、自主事業、給与等） ・自主事業紹介（「吹雪対策」「サイクルツーリズム」「ふゆトピア」「ロードキル」） ・受注業務紹介（「協働型及びシーニックバイウェイ」「公共交通」） ・フィールドワーク説明・準備
９月６日 （未実施）	・フィールドワーク ◆課題　当別町内で開発中の自転車モデルコースを開発する。
９月７日 （未実施）	・フィールドワークの結果の取りまとめ ・インターンシップ振り返り会

※北海道胆振東部地震（９/６AM3時発生）により6日・7日は未実施。

４２５　沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業（継続）

シーニックバイウェイ北海道の参加団体を対象に、活動団体が実施する沿道の環境を守り、活用する事業に関する共同研究事業を継続する。特に、参加団体の連携事業に重点をおいて研究を実施するほか、活動団体の研修派遣事業も同時に実施した。また、webやドライブ情報紙を活用した地域情報の提供も継続して行った。

1．沿道の環境を守り、活用する事業に関する支援事業発表会・審査会の開催

- 平成30年8月1日、北海道開発技術センターにて、平成30年度支援事業の審査会及び平成29年度「沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業」の成果発表会を開催。

＜平成29度 成果発表会＞

・連携研究3件、単独ルート3件の研究発表を実施。

シーニック賞を受賞した「きた北海道エコ・モビリティ商品化推進事業（上）」「最北の大河『天塩川』でつなぐ・つながるプロジェクト」（下）の取り組み

利尻島サイクルツアー

PR用試行グッズ

＜平成30年度 採択された調査研究事業＞

事業名	ルート名
大雪・富良野ルートHistoric Byway 写真収集事業	大雪・富良野
フォトジェニックな十勝の発掘・発信と女子旅企画	トカプチ雄大空間
シーニックバイウェイのPR、地域情報発信、地域オリジナル商品の販売を兼ねた複合型シーニックスポットの検討	釧路・阿寒
第１回元気街道２３０プロジェクト　南区スタンプラリー	札幌
どうなん道の駅連携推進事業	どうなん追分
きた北海道River×Road×Rail観光創出事業	天塩川/宗谷

2．情報誌 ScenicByway製作・発行

- シーニックバイウェイ北海道各ルートへの来訪を促すドライブ観光総合情報紙として「おすすめのドライブルート」「滞在・体験メニュー」「旬の食事」「旅の思い出になるお土産」等の地域情報を発信。

＜今年度の事業概要＞

vol.21夏-秋号　ドライブ＆大人

vol.22　冬-春号　ドライブ＆宝

・発行回数：年2回発行（夏秋号・冬春号）

・発行部数：各11万部／仕　様：A5サイズ×40P

・読者層：30～60代のドライブ観光客（道内・道外）

【発　　行】北海道ドライブ観光コンソーシアム
【編集・制作】シーニックバイウェイ編集・制作実行委員会
【協　　力】一般社団法人　北海道開発技術センター
　　一般社団法人　シーニックバイウェイ支援センター
【編集協力】シーニックバイウェイ北海道15ルート

４５１　調査研究成果などの紹介及び普及（継続）

dec monthly［A4/8p 2/2 c ］ 年12回発行

4月号

発行月		表紙	1P	2P	3P	4P	5P	6P	うら表紙
		インタビュー（2P）		dec 主催事業の報告（2ｐ変動あり）		自主研究の紹介（2p 変動あり）		関連団体の催し物の開催報告	お知らせ等
4 月	No.391 野生生物	日本サイクルツーリズム推進協会 西田　恵理子　氏			野生生物と交通		野生生物と社会		DEC 総会+ISCORD のご案内
5 月	No.392	ライター 北室　かず子氏		地域と社会を元気にするフォーラム 2p：竹原課長　3・4p：新保校長先生　5p：藤井先生　6p：ポスターセッションと講評					お知らせ（ピクニックライド・SBW イベント等）
6 月	No.393	みちネット代表 田中　夕貴　氏		平成 30 年度　Dec 総会開催報告（5/31）					お知らせ（ピクニックライド等）
7 月	No.394 雪氷	福島町長 鳴海　清春　氏		2018 年度雪氷学会北海道支部研究発表会 ※発表 4 本掲載（dec2 本・他 2 本）			気象協会フォーラム　残り		お知らせ（ピクニックライド等）
8 月	No.395	有限会社阿寒観光ハイヤー株式会社　代表取締役社長 松岡　篤寛　氏		北海道のサイクルツーリズム推進フォーラム（5/29）			函館新道植栽（6/9）※中村さん取材		お知らせ（ピクニックライド等）
9 月	No.396 交通	スイス・モビリティ財団 ルーカス・スタッドテール　氏（基調講演より）+観光とモビリティに関する国際セミナー			観光とモビリティに関する国際セミナー　（話題提供）		観光とモビリティに関する国際セミナー（パネルディスカッション）		局長＆部長賞受賞・CTC
10 月	No.397 福祉	北海道科学大学 石田　眞二　氏		JCOMM 開催報告（7 月開催）in 豊田			Dec 自主研究発表会		CTC のご案内
11 月	No.398	なよろ観光まちづくり協会 理事長 栗原　智博　氏		てっぺんライド（原さんもしくは紀行を寄稿）			シーニック　チカホ開催報告		第 18 回 野生生物と交通研究発表会のご案内（2 月 開催）
12 月	No.399 雪氷	寒地土木研究所 松澤　勝　氏		第 17 回　日中冬期道路交通ワークショップ（10/13~）			IENE 参加報告（9 月：野呂さん）		哺乳類学会　参加報告（9 月：鹿ちゃん）
1 月	No.400	本多会長挨拶	土木の日		第 17 回 野生生物と交通研究発表会のご案内				
2 月	No.401 CTC	理研興業 柴尾　耕三　氏		第 34 回 CTC 開催報告					第 18 回 野生生物と交通研究発表会のご案内（2 月 開催）
3 月	No.402	配送ロボット社会実装推進コンソーシアム、山形大学　客員教授 上野　崇　氏		北海道の人口低密度が選択する交通の方向―ライドシェアの実験・MaaS・自動運転―			くらしの足をみんなで考える全国フォーラム参加報告（10/27-28　竹口・吉田）		平成 31 年度 dec 定時総会のお知らせ
4 月	No.403 野生生物	公益財団法人　知床財団 主任研究員　石名坂　豪　氏		第 18 回「野生生物と交通」研究発表会			第 24 回「野生生物と社会」学会　九州大会参加報告		「マッスルスーツ」での雪はねボランティア体験報告、平成 31 年度 dec 定時総会のお知らせ

４６１　寒地技術シンポジウムの開催

第34回　寒地技術シンポジウム

期間：平成30年12月5日（水）～7日（金）
会場：札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1）
参加者：295名　　論文：68編（査読論文17編、報告論文51編）

○　開会式（12/5）
１）寒地技術賞表彰式
２）特別講演「北の味わいと産業史」
　講師：北室かず子 氏（ノンフィクション・ライター、編集者）
３）トークセッション「北の食を支える社会資本」
　ゲスト
　　鳥取義之 氏（一般社団法人 北海道国際流通機構　代表理事）
　　西大志 氏（苫前町まちづくり企画 代表）
　　北室かず子 氏（ノンフィクション・ライター、編集者）
　コーディネータ
　　新保元康 氏（札幌市立屯田小学校長）
○　分科会（12/5～7）
　第1分科会／寒地と海・河川（氷海船舶・構造物・漁業）
　第2分科会／冬と防雪Ⅰ（吹雪・吹き溜まり）
　第3分科会／寒地と気象（気象計測）
　第4分科会／寒地とエネルギー（自然エネルギー）
　第5分科会／冬と防災（地震・気象災害・防災計画）
　第6分科会／寒地と構造物（維持管理・エネルギー）
　第7分科会／寒地技術の国際化（海外展開）
　第8分科会／冬と交通Ⅰ（道路計画・維持管理）
　第9分科会／冬と防雪Ⅱ（融雪災害、雪崩）
　第10分科会／冬とくらし（雪氷物理、文化）
　第11分科会／冬と交通Ⅱ（消雪、転倒事故対策）
○　技術展示（12/5～7）7団体・12テーマ

論文集CD-ROM
概要集／A4判

特別講演　北室かず子 氏

寒地技術賞　表彰式

パネルディスカッション

分科会（口頭発表）

ポスターセッション・技術展示

４６２　「野生生物と交通」研究発表会

第18回　野生生物と交通」研究発表会

＜開催概要＞

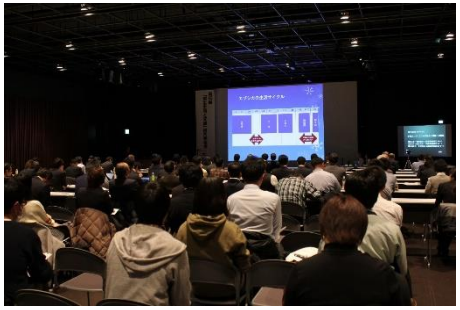
- 期　日：2019年2月19日（火）10:30～17:00
- 場　所：札幌市民交流プラザ　クリエイティブスタジオ
- 共　催：一般社団法人エゾシカ協会、一般財団法人北海道環境財団、一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター、アニマルパスウェイ研究会、一般社団法人アニマルパスウェイと野生生物の会
- 参加者：205名　　報文数：　10編
- 分科会：第１分科会　ロードキル（３編発表）
  第２分科会　ロードキル対策（４編発表）
  第３分科会　保全・緑化（３編発表）
- 特別講演：公益財団法人知床財団 石名坂 豪氏
- 国際会議報告：一般社団法人北海道開発技術センター　野呂美紗子
- パネル展示：11団体

ウェブサイト

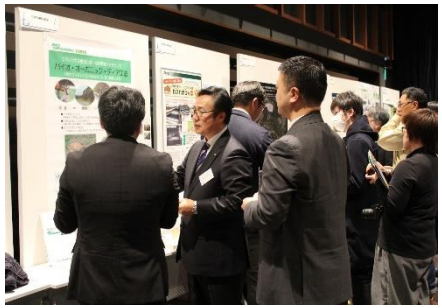
編纂した
講演論文集

口頭発表（山田氏）

会場からの質疑



発表会会場の様子



パネル展示の様子

４６３　地域政策研究セミナー等の開催（継続）　－（１）

国際セミナーを２回開催した。

観光とモビリティに関する国際セミナー

＜開催概要＞

主　催：（一社）北海道開発技術センター、北海道エコ・モビリティ研究会

共　催：きた北海道エコ・モビリティ、（一社）シーニックバイウェイ支援センター、NPO法人日本風景街道コミュニティ

後　援：北海道開発局、北海道運輸局、北海道、北海道観光振興機構

と　き：平成30年8月22日（水）

ところ：北海道大学総合博物館

参加者：63名

プログラム：

【基調講演】ルーカス氏
『スイス・モビリティとスイス観光』

【話題提供】
『北海道ですすめられているプロジェクトの紹介』

【パネルディスカッション】
『北海道の「観光とモビリティ」を考える』

ルーカス・スタッドテール氏
（スイス・モビリティ財団　理事）

フットパスによる地域活性化の展開
－英国WaWの理念、効果、可能性

＜開催概要＞

主　催：（一社）北海道開発技術センター

共　催：フットパス・ネットワーク北海道（FNH）、
（一社）シーニックバイウェイ支援センター

と　き：平成30年11月8日（木）

ところ：北海道大学総合博物館

参加者：55名

プログラム：

【話題提供】
『フットパスとは？』

【基調講演】
・Sam Phillips
（サム・フィリップ氏）
英国WaWネットワーク会長、コッツウォルズ在住
・Randal Metzger
（ランダル・メッツガー氏）
英国WaWネットワーク理事、西ヨークシャー在住

【質疑応答】

４６３　地域政策研究セミナー等の開催（継続）　－（２）

dec地域政策研究セミナー
「地域と教育を元気にするフォーラム2019」 ―防災と学校教育―

【開催概要】
- 日時：平成31年2月2日（土）
- 場所：TKPガーデンシティ札幌駅前
- 主催：一般社団法人北海道開発技術センター
- 共催：土木学会「土木と学校教育会議検討小委員会」
- 後援：国土交通省北海道開発局、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会北海道社会科教育連盟
- 参加者：85名

フォーラムの様子

1．講 演
講演テーマ：生きる力を育むこれからの防災教育
講演者：吉門　直子氏
文部科学省総合教育政策局安全教育調査官

2．ポスターセッション
ポスターセッションでは、以下の12件の授業実践や災害、防災に関する取組が発表された。

3．パネルディスカッション「防災と学校」
コーディネータ：
新保 元康氏（札幌市立屯田北小学校校長）
パネリスト：
吉門　直子氏
（文部科学省総合教育政策局安全教育調査官）
菅野 光明氏（札幌市立琴似中央小学校校長）
松井　敦利氏（札幌市立屯田北小学校評議員）
田村 桂一氏
（国土交通省北海道開発局事業振興部防災課長）

ポスターセッション

パネルディスカッション

４２７　日中冬期道路交通ワークショップの開催（継続）

第17回日中冬期道路交通ワークショップの開催

寒地開発技術に係る日中の技術者との交流機会を創出することで、寒地開発技術の相互発展を目的としている。

日　時：平成30年10月15日（月）～16日（火）
場　所：北海道大学学術交流会館－札幌）
主　催：（一社）北海道開発技術センター、アジア交通学会、
　　国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
参加者：34名（中国8名、日本26名）
プログラム
　第1セッション　除雪と道路工事
　第2セッション　情報提供
　講演「北海道で開発している最近の冬季道路管理
　　技術の紹介」　萩原亨北海道大学教授
　第3セッション　吹きだまり
　第4セッション　道路構造物

エクスカーション
　平成30年10月17日（水）～18日（木）　後志管内の道路附属施設や管内道の駅の視察

山口理事長による開会挨拶

中国技術者からの質問

北大工学部萩原教授による「i-snow」に係る講演

共催の寒地土研からの閉会挨拶

小樽開発建設部の案内による国道276号折りたたみ式雪払い柵の見学

外国人用道の駅スタンプラリーに参加することで、道内ドライブの提供サービスも体感していただいた。